

学校教育目標	「心豊かな生徒」「自ら学ぶ生徒」「自己実現を目指す生徒」
目指す学校像	○希望の登校 ○笑顔の活動 ○満足の下校
重点目標	1 学力の定着・向上を目指した授業の工夫・改善 2 信頼関係に立った生徒指導の充実と、 4 安全・安心で心潤う教育環境づくり 5 保護者や地域等との連携協力の推進 3 きめ細やかな指導をととした心豊かな生徒の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標							年度評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和8年2月19日	
1	<p><b>【学びの質の向上に関する取組】</b> (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、全国市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○タブレットを活用した課題解決学習(調査・整理・まとめ・プレゼンテーション)に対し、意欲的に取り組む生徒が多い。 (課題) ○家庭学習の習慣が十分に身に付いていない生徒や計画的な学習を苦手とする生徒が多い。 ○生徒用端末及びソフトの入れ替えに伴い、タブレット有効活用について、研究・実践する必要がある。 ○「資質・能力ベース」で生徒の学びを育てる視点で、カリキュラムマネジメントを推進する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の相互授業参観</li> <li>・学びの指標アンケート</li> <li>・カリキュラムマネジメント</li> </ul>	<p>①学びの指標アンケートの4項目(主体的・探究的・ICT・基礎)について目標値を設定し、学期ごとに評価・改善の機会を持続可能な質の高い教育を進め、さらなる学力の向上に向けて授業改善を図る。 ②生活目標「礼を正し、場を淨め、時を守る」を、日々の授業の中で常に意識させるよう声掛け等を行う。また、今年度は、「時と場に応じた気持ちの伝わる挨拶・言葉遣いの励行」を重点とし、与野西中に関わる人々のよりよい人間関係作りを目指す ③個別最適な学びと協働的な学びの充実を目指し、ICT機器を活用した自習時間や家庭学習の充実、学び合いの場の充実、個々の生徒が自律的・主体的に学習に取り組む「自由進度学習」の実施等について更なる取組を進める。 ⑤令和9年度に向けたカリキュラムマネジメント(教育課程の実施・評価・改善・編成)の推進を図るため、教育課程検討委員会・教科部会等等を計画的に実施する。</p>	<p>○学び指標のアンケートの全教員の平均値を、1学期に比べ0.2ポイント上昇させる。(昨年度の1学期3.30ポイント) ○学校自己評価に係る生徒アンケート「気持ちの伝わる挨拶ができていく。」の肯定的回答の割合が90%(新規)以上となるようにする。 ○学校評価生徒アンケート「授業規律の項目について肯定的な回答が昨年度を上回る。(昨年度85%) ○生徒に育みたい資質能力等について明確化を図り、それを基にしたR9カリマナビデザインマップを作成する。</p>					
2	<p><b>【心のサポート・心の安心に関する取組】</b> (現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回っている。 ○心に不安を抱えている生徒が多くみられ、個々に応じたケアが必要である。 (課題) ○生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していくことが必要である。 ○特に、信頼他者の低い生徒の割合がやや多い。 ○インターネット(SNS等)による誹謗中傷、事実無根の書き込み等、生徒の安心が脅かされている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導・教育相談体制の強化</li> <li>・早期発見見守り体制の強化</li> <li>・誰一人取り残さない教育の推進</li> </ul>	<p>①目指す学校像の実現の観点から「生徒指導・教育相談体制」についての評価・改善を、部会等を中心に実施するとともに、「適切ないじめ対応」をテーマに小・中合同研修会を設定し、小・中一貫教育の視点からいじめ対応力等の強化を図る。 ②おはようメーター等のスクールダッシュボードのさらなる充実を図り、タブレット端末を活用して生徒指導や教育相談部会、生徒との面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握する。 ③本校の独自アンケートや日々の行動観察による適切な生徒面談及び校内や家庭との迅速・正確・確実な情報共有の徹底を図る。 ④通級指導教室の効果的活用を推進し、生徒の困り感を解消する。 ⑤さわやか相談室・Solaルームの機能強化(学習保障・ソーシャルスキルトレーニング・コミュニケーションツールとしての各クラスのTeamsの活用等)による「誰一人取り残さない」体制強化を図る。</p>	<p>○小・中合同研修会を確実に実施する。 ○「生徒指導・教育相談体制」の強化に向けた具体的改善策の策定(2つ以上)する。 ○学校自己評価に係る生徒アンケート「穏やかな雰囲気(心)で学校生活が送れている」の肯定的な回答の割合が88%(昨年度89%)以上となるようにする。</p>					
3	<p><b>【開かれた学校に関する取組】</b> (現状) ○昨年度も、学校運営協議会での話し合いの内容を確実に実行し、地域や家庭と一体となった教員の取組を行うことができた。地域の方々の本校への愛情の深さを常日頃から感じている。学校運営協議会では、常に、自ら課題を見出し、協働して解決し、さらに生徒を地域全体で育てていくことを確認している。 (課題) ○「生徒の学校運営協議会への参画」を通じた学校運営協議会の更なる充実が求められている。今年度も、昨年度の実践を生かし、さらに多くの地域の方々のプロジェクト参加を促していきたい。より一層、学校・家庭・地域が一体となった実践を熟議によって決定・実行していく。望ましい生徒の姿や学校に期待することを、家庭・地域・企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ぐるみで子どもを育てるための具体策の発案と実践</li> <li>・生徒自ら地域や社会に貢献できることを考え、実践する力の育成</li> </ul>	<p>①コミュニティ・スクールを更に進め、地域とともに成長する学校にしていくため、「生徒の参画する学校運営協議会と野西中モデル」の策定(令和9年度実施を目指す) ②学校運営協議会を核として学校・地域・保護者が協働して継続的に子どもを育てる体制を強化していく。 地域との連携を基盤とした体験活動を充実させることで、 ①社会参画意識の向上を図る。 ②地域の一員としての自覚を育てる。 ③主体的に社会に関わろうとする態度を育成する。 A 地域の清掃ボランティア活動 B 夏祭りの中学生神輿 C 地域の避難場所運営訓練において生徒による普及活動 D 安全マップティッシュを生徒が与野本町駅前地域の方に配布 E 地域の催しものへ参加(自治会主催運動会ボランティア、自治会主催のお祭りボランティア、バラ祭り吹奏楽部等)</p>	<p>○保護者アンケート「保護者や地域の協力による教育活動の推進」の項目に対し、肯定的意見が89%の肯定的な回答、A評価28%以上になる。(昨年度肯定的意見87%、A評価26%) ○教職員アンケートで、「地域の方々と接する機会を多く持ち活動ができたか」の項目に対し、A評価が33%以上になることができる。(昨年度28%)</p>					
4	<p><b>【教育環境の整備に関する取組】</b> (現状) ○ここ数年、生徒主体の安全教育に重点を置き、生徒が常に安全な生活のための様々な活動に取り組んでいるため、災害や危険行為や危険場所に対する意識が高まっている。 (課題) ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をさらに育んでいく。 ○市の動きを踏まえた、校内の集金体制の見直し求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検等の確実な実施</li> <li>・生徒の主体性を生かした教育環境整備</li> </ul>	<p>①職員による安全点検を確実に実施し、迅速な修繕と危険箇所等への対応を確実に見届ける。安心・安全な集金体制の再構築 ②生徒の主体性を生かした教育環境整備(施設) 学校生活で不便なところをタブレット上の電子目安箱等を使い洗い出し、クラスや全体で話し合いを重ねることで生徒目線の改善を図っていく。要望に対し、予算だてをしていく。(SNS等)上の個人情報漏洩や誹謗中傷等の未然防止を生徒会役員や学級委員会を中心に、生徒自らの手で行い、自ら解決していく(エージェンシー)の育成に取り組む</p>	<p>○教職員アンケート「毎月の安全点検が確実に実施され、対応&lt;修理・修繕&gt;(新規)にもなっている。」で肯定的回答90%以上になる。 ○R9集金体制が確立 ○学校評価生徒アンケート「生徒が自分たちの力で学校の環境整備に取り組んでいる」(新規)について肯定的な意見が80%以上になる。</p>					
5	<p><b>【教職員の資質向上に関する取組】</b> <b>【働き方改革についての取組】</b> (現状) ○アクティブ・ラーニング型授業の実施について、定着が図られつつある。 (課題) ○生徒の端末入れ替えに伴い、教職員が授業で効果的にICT活用が図れるよう、研修が必要である。 ○働き方改革マスタープランに基づく取組(業務量を適切に把握し、健康を確保しつつ教育の質を維持向上させる)の推進が強く求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人ひとりが働きがいを持ち、キャリアアップできる環境整備</li> <li>・働き方改革</li> </ul>	<p>①当初面談で、キャリアパスポートに基づいたスキルを明確化し、全教職員の自己評価シートにスキルアップ・キャリアアップ項目を明記させ、年3回の人事評価面談で、達成状況や進捗状況を確認する。 ②教職員の指導力・資質向上に向け、教職員同士が「見て、見せて」を合言葉にした「教職員による相互授業参観」及び「ICTの効果的活用法に関する校内研修」、「意図的なOJT」等を推進する。 ③さいたま市立学校における働き方改革マスタープランについてその内容の共通理解(現状分析)の上、「勤務時間外在校時間に基づく面談」「適正な勤務時間の割り振り変更」「休暇取得の推進」「各教職員ごとの定時退校日の設定」について重点項目として実施する。</p>	<p>○年3回の人事評価面談を実施する。 ○年間2回の授業公開・年間3回の授業観察・交流を実施する。 ○学び指標のアンケートの全教員の平均値を、1学期に比べ0.2ポイント上昇させる。(昨年度の1学期3.30ポイント) ○学校評価職員アンケートで「(昨年度に比べ)業務負担軽減や事務の効率化図られていると思う」(教職員)の項目で、肯定的回答が73%以上になる。</p>					

